

郡上農林事務所の普及活動状況

令和3年5月27日現在

今月の重点活動

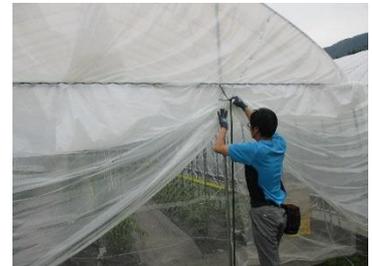
■新規就農 「郡上トマトの学校」卒業生への支援

郡上市白鳥町にて、就農研修施設である「郡上トマトの学校」の卒業生が、この春から夏秋トマト経営に取り組んでいる。

学校では4aのほ場で2品種の栽培を学んだが、栽培しやすさを考慮して1品種に絞って栽培を開始した。

また、就農に際して初年度のハウス面積は14aとし、研修中と比較し面積が3倍以上となった。そのため、普及指導員と相談しながらハウスごとに栽培計画表を作成するなど効率的な管理を工夫した結果、順調に作業が進められている。

今年度は定植直後に梅雨入りとなったことから、農業普及課では、梅雨の晴れ間に起こりやすい萎れに注意を促すなど、毎年異なる気象に戸惑うことがないように、卒業生をはじめ経験の浅い新規就農者へのきめ細かな支援を行っている。



【換気作業を行う
新規就農者】

ぎふ農畜水産物のブランド展開

■水稲 新品種「ほしじるし」の栽培実証

5月15日から23日にかけて、郡上市北部の水田にて新品種「ほしじるし」の田植え作業が行われた。

郡上市内で栽培されている水稲の品種は大半がコシヒカリだが、近年の水稲経営の大規模化に伴い、各作業が一時期に集中することから適期作業や更なる規模拡大の阻害要因となっている。

そこで、今年度、市内北部の4戸の経営体が、作期分散を目的に収穫期のやや遅い「ほしじるし」の栽培実証を行うこととなった。

「ほしじるし」は、食味が良く収量が多いことから業務用として平坦部では拡大しつつあるが、県内では当地域のような標高300~400mでの栽培は初めての試みとなる。

今後、農業普及課では全農岐阜やJAめぐみのと連携しながら、収量や食味調査等を行い、中山間地域での適性について検討する。



【「ほしじるし」の
田植え作業】

■だいこん ひるがの高原だいこん生産組合 品種検討会開催

ひるがの高原だいこん生産組合では、若手生産者で構成する成年部が中心となり、新品種栽培や各種資材の試験に取り組んでいる。

5月12日には、組合役員やJA事務局、農業普及課による品種検討会を開催し、種苗会社の担当者より品種特性など聞きつつ、サンプルのだいこんの外観や内部品質を確認した。このサンプルは、種苗会社が平坦地の試験ほ場において冬に栽培したもので、夏だいこんの高鷲地区の品種選定にも参考となった。

今年度は、は種期ごとに2~3品種を反復し約10通りの試験を部会員ほ場で計画しており、例年6月中旬ごろから順次、農業普及課が巡回して調査を行う。

品種は、生産安定のための重要な技術の一つであり、農業普及課では産地の出荷量確保に向け、調査や結果のとりまとめなどの支援を行う。



【サンプルを見ながら
試験品種を検討】

■夏秋いちご ひるがの高原いちご組合が栽培勉強会を開催

5月24日、高鷲地域で夏秋いちごを生産する「ひるがの高原いちご組合」の農家9戸が集まり、栽培勉強会を開催した。

はじめに、農業普及課から7月の収穫開始に向けて、充実した株づくりのための温度管理など栽培管理の留意点を説明した。併せて、農薬散布履歴の記帳方法や農薬を使用する上での注意点など、安心安全な農産物出荷のポイントを確認した。

勉強会では、夏場の高温対策のため循環扇や遮光資材の導入について、これまでの組合員の実証結果をもとに意見交換も行われ、高品質生産に向けての取組を検討した。

農業普及課では、栽培管理や病害虫防除に関する情報提供を通じて、産地における高品質で安全な夏秋いちご生産支援を継続して行う。



【高品質な夏秋いちご生産
に向けて勉強会】

■トルコギキョウ 土壌還元消毒の実証開始

高鷲地域の「ひるがのフラワーサークル」では、6戸の農家によって約1.1haのトルコギキョウを栽培、共同出荷している。

トルコギキョウは土壌病害が発生しやすく、薬剤では防除できないケースもあって、激発するほ場では出荷率が50%を下回るなど、その被害が産地において問題になっている。

そのため、農業普及課では新たな防除法として、今年度、土壌還元消毒の現地実証を開始した。土壌還元消毒とは、土壌中の微生物の発酵により一時的に土中を酸素不足（還元状態）にし、併せて高い温度で病原菌を死滅させる方法である。

5月6日には、還元状態にするための発酵資材となる米ぬかをハウス1棟あたり300kg散布した。その後、土壌をビニールで被覆し湛水状態にして、7月まで放置して病原菌を死滅させる。

農業普及課では、防除効果に加え作業にかかる労働力なども含め、成果を検証する計画である。



【ハウス一面に散布した
発酵資材の米ぬか】

中山間地域を守り育てる対策

■農産物直売所 直売所チャレンジ・オンラインフォーラムに参加

5月27日、全国農産物直売ネットワークが開催するオンラインフォーラムに郡上市青空市場連合が参加した。

これは、新型コロナウイルスの影響で売上が落ち込み、経営改善を模索する各青空市に対し、先進地視察など例年どおりの研修ができない状況下で情報収集する手段として、農業普及課が提案したものである。

青空市場連合の参加者からは、「コロナ禍を逆手に取った事業展開の実践など、とても興味深い内容で役に立った。」と好評であった。

農業普及課では、今後ますます盛んになるオンライン研修なども活用しながら、地産地消の動きを支援していく。



【オンライン研修会に
参加する生産者】